

学校だより

第24号
令和8年度

いつも心にあいうえお

令和8年 5月13日(水)

発行：那覇尚学院高等専修学校

文責：校長 初鹿野修

自分で創る体験・自分で創る意欲！！！！

さて、日本人の手先の器用さは、世界でも認知されています。さらにアイデア・思考することも世界的に有名です。しかし、これが最近、危うくなってきたという指摘があります。そこで、文科省の学習指導要領では、「ものづくり」も学習の中で配慮することになりました。

○丁寧につくる ○粘り強く最後まで仕上げる ○できるだけ美しくつくる ○手抜きはみっともないと責任を持ってつくる ○チームワークで協働（協同）してつくる ○無駄にするのはもったいないと材料を大事にする ○人に言われなくても、よりよいものつくる工夫・改善をする

上記のことが小中高で共通していることです。

5月は、職場体験があります。職業講話もあります。まさしく、「自分で創る体験」「自分で創る意欲」です。このことを意識しないと、ただ職場に行った、ただ話を聞いたにしかありません。いかに自分のものにするかは、「自分で創る」を意識することです。それも、**丁寧に・最後まで・美しく・責任を持って・・・人が言うからではなく**などを、どれだけ意識できるかです。体験をさせてくれる場があります。お話をしてくれる人がいます。自分だけではありません。対人の中に入っていきます。普通の授業とは全く違うことを意識できるようにすると収穫は、何倍も変わります。

二人の積極的な「自分で創る体験」「自分で創る意欲」に期待します。

3年 大河君 那覇小学校での 養護教諭の先生の職場を体験する

2年生で、那覇小学校保健室の養護教諭の先生のお話を聞きに行きました。どんなことを感じ、どんなことを学び、どんな疑問を持ったのでしょうか？

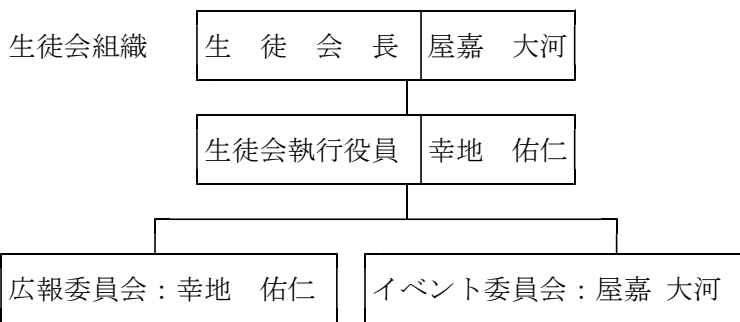
今度は、それを自分で創る体験で少しでも自分のものにしてください。そして、自分ので創る意欲で、次のステップに進められると、この職場体験が生きたものになります

体験の機会を与えてくださった那覇小学校に感謝を忘れず、意義ある職場体験にしていきたいと思います。

2年 佑仁君 行政書士書の先生のお話を聞く

初めての専門家からのお話を聴くチャンスです。本を読んだり、インターネットで調べたりは今でもできます。でも、実際の仕事をしている先生からの生のお話はより現実的になると思います。この体験を、聞くだけで終わると通常の授業と変わりません。「自分で創る体験」「自分で創る意欲」の意識を持って「聴いて」ください。そして、自分の中で次への意欲とつなげられることを期待しています。次の職場体験は、どのようにするか？これも考えていきましょう。

「私達の生徒会活動」



生徒会長として 屋嘉 大河

私は、生徒会長として主にグループ校との交流を計画しています。この学校のグループ校には、様々な夢を持った人や様々な経験や知識を持った人がいるので、私達の夢を見つける、夢の追い方を知ることが出来ると思っています。

教職員へ 薫習（くんじゅう）

自然のうちに親や教師、大人のしぐさが子どもに伝わっていく、いわば、しつけの類を「薫習」というそうです。言葉遣い、整理整頓、消灯、脱衣の始末等も薫習が大切だと言われています。

「空気の教育」とは、「そうしなければ気が済まない」「何か変だ」という域まで達した「しつけ」・

「薫習」だといえるのではないのでしょうか。

「空気の教育」には、公式があるといます。

それは、【形式】×【繰り返し】×【時間】です

私達の教育・支援・寄り添い方にも応用できそうです。学びの内容は、定着するまでには、ある程度の「繰り返し」「時間」をかける必要があるということです。そして、一つでもない0になるということは、私達が学校を改善するために取り組んでいる、「学校評価」と同じような気もします。一つ一つを丁寧に取り組んでいきましょう。